

提言施策名	吉川市庁舎跡地利活用に関する提言 提言研究員 野田妙子
-------	--------------------------------

上記提言の要旨

【提言の背景】

高齢者がいつまでも健康で生きがいを持って生活していくこと、子どもたちが希望をもって成長していくこと、障がい者やその家族が安心して暮らせること、こういった社会を地域の支え合いの中で築いていく必要がある。

このようなことから、市では、吉川市庁舎跡地の利活用について、地域コミュニティを支える福祉的な拠点機能が必要ということで、施設整備の方向性を検討している。

これからの福祉の拠点は、新しい住民生活の交流の場となり、そこから、カテゴライズされない福祉の支援を実現できるようになってほしいと願っているため提案をしたい。

【今迄の議論の概要】

以前の検討会では、次の事項等が案として出された。

- 老人福祉センター、保健センター、こども発達センターなどの建替え用地
- 民間のスーパー、コンビニ、喫茶店、介護事業者などの誘致

【政策提言】

本提案の趣旨は「カテゴライズされない福祉の拠点整備と相談窓口設置、支援の実現の検討」である。

昨今の福祉プラザ構想では、1Fは地域住民の交流の場としての開放的なスペース、2F以上に福祉の各専門機関があるというのが一般的だと思われる。しかし誰でも相談できる「親しみやすい市民の交流の場」はかなり周到に準備しなければ実現できないと思われる。

【要点】

政策提言を実現するために、要点となる点について以下に述べる。

- 1・多様な利用者を想定したオープンスペースの設計をどのようにするか。
- 2・専門領域を越えて、連携する専門職集団の質を確保することができるか。
- 3・サウンディング調査が予定されているが、民間の力をどこまで引き出すことができるか。

1 オープンスペースのアイデアあれこれ

オープンスペースを作れば親しみやすい場になるわけではなく、様々な人にとって利用価値のある場にすることが重要であると思われる。以下は参考までに、サンプル提案をする。

\*テレワークの人や、グループ活動支援も含めて、コワーキングスペースの有料提供

(Ex 2021 鹿児島県庁 かごゆいテラス NPO 法人運営)

\*吉川の野菜の直売所と、地産野菜を使ってビュッフェレストラン運営などを民間業者者に委託 (Ex 柏市 かしわで 地元農家のグループにて運営)

\*フードバンクの受付 受け取りがいつでもできる

\*「芸術によるまちづくり」に対応して、テラスをつくり「だれでもピアノ」(ピアノは寄付) または、時にはボランティア演奏家 (県に登録システムがある) の演奏会

\*店舗スペースを作り、眼鏡、補聴器業者、介護用品業者、車いす、装具業者などが定期的にショップをオープンする。(有料・高齢者、障害者にとって費用な用品が近隣で調達できる)。

**\*そして、その中に福祉の各機関が連携した相談窓口をしっかりと開設する。**

2 連携強化型相談のソフト面の準備

本提案の趣旨は「カテゴライズされない、福祉相談窓口と支援」であるが、最も重要なのは相談する専門職の力量と問題意識である。ハード面が整備されても、携わる人が連携していなければ問題は解決できない。老人、子ども、障害と各分野の専門職が地域を基盤としての連携を作っていくことを、ハード面の整備とともに、早くから準備する必要がある。

3 民間との連携

サウンディング調査は双方に負担にならないが、様子見となってしまうことも多い。

企業が最も重視するのは、コストパフォーマンスであるから、行政側であらかじめ、提案のマーケティングリサーチをすることも重要で、民間のインセンティブを引き出す行政側の力量が求められる。

近隣のスーパーの撤退、乱立するコンビニの状況などをみると、大手資本の参入を促すのはなかなか難しいのではないかと。1で例として挙げた成功事例は、地元根付いて活動している NPO、市民団体に運営を委託している。大手資本に期待するのではなく、スタートアップ企業を育てるようなビジョンがあっても、面白い。